



ふくししやく 福祉施策のタイムスリップは許さない

かいりじ とみたただかず
ちいろば会理事 富田忠一

あべ そうり たいにん たんじょう すが そうりだいじん しゅうにんかいけん はつげん わたし め ざ しゃかいぞう じじょう
安倍総理の退任により誕生した、菅総理大臣の就任会見での発言、「私が目指す社会像、それは、自助・
きょうじょう こうじょう さいずな はつげん たい やとう おお ひとびと せいふ やくわり ほうき
共助・公助、そして絆であります。」この発言に対し、野党をはじめ多くの人々から「政府の役割を放棄して
いるに等しい」と怒りや批判の声があがりました。

わたし すが そうり はつげん き さいしよ れんそう めいじ ねん ねん はつぷ だじょうかんふ こく
私も菅総理のこの発言を聞いて最初に連想したのは、明治7年(1874年)に発布された太政官布告
「恤救規則」です。恤救規則とは、明治政府が生活困窮者の救済を目的に発布した救貧法のことです。
この法律は、わが国の近代国家として最初の福祉法といえます。その内容は、『窮民救済は「人民相互の
じょうぎ こうゆう じょうあい こうじえん もと おこな さいしよ ふくしほう ないよう きゅうみんきゅうさい じんみん そうご
情誼(交友の情愛。したしみ。よしみ:広辞苑より)」に基づいて行うべきだとして、国家責任を認めません
でした。また、救済の対象も「鰥寡孤独」つまり、年老いて面倒を見てくれる人のいない老人や病弱、障害
によって働くことのできない貧窮者、孤児に限られていました。その後、いくつもの救貧関係の法案が国会
に提出されましたが、政府も国会も「国家が安易に貧民救済を行うことは惰民の養成につながる」として
認めませんでした。』(杉本 彰 「障害者はどう生きてきたか」ノーマライゼーションプランニングp11。)
下線部分は富田の加筆)というものです。しかも、この法律は、1874年の発布から1927年(昭和2年)に
「救護法」が制定されるまで50年以上も続いたのです。封建的な考えが強く残り「社会保障」や「公的
せきにん がいねん うす じだい しさく こんにち しんじゆうしゅぎ じ こせきにんろん
責任」などという概念の薄かった時代の施策ではありますが、今日の新自由主義による「自己責任論」と
軌を一にする考え方に思えてなりません。

そもそも、悪夢のような「安倍政権を引き継ぐ」という前提で総理に就任した菅総理に何ら期待すること
はありませんが、就任早々、この国の行政府の長である内閣総理大臣の口から100年以上も前の法律と
何ら変わることはない社会像をめざすと打ち出されたことには恐怖を覚えます。政府が率先して「すべり台」
のような社会の仕組みを構築し、しかも、コロナ禍において十分な保障もないままの休業要請などの結果、
ひんきゅう おちい おお こくみん まえ こうてきせきにん かた じじょうりよく もと おしんけい あ ぐち
貧窮に陥った多くの国民を前にして、公的責任を語ることもなく自助努力を求める無神経さには開いた口
が塞がりません。

くに げんじょう かくさしゃかい みなお こうじょう しゃかいほししょうせいど じゅうじつ こくみんひとり みずか こうふく
国はまず、現状の格差社会を見直し、公助としての社会保障制度を充実させ、国民一人ひとりが自ら幸福
を追求できるような共生社会を構築したうえで、自助をもとめるべきではないでしょうか。

じゅうきゅうきそく ばいし こんにち かん けんぽう もと い ききづらさ かか とうじしゃ かぞく
恤救規則が廃止されて今日までの間、あらたな憲法の下、生きづらさを抱える当事者やその家族による
ながねん うんどう せい か せいぞんけん こうふくつききゅうけん こくみん けんり ふくししやく じょうじょう せいび こんにち
長年の運動の成果として、生存権や幸福追求権など、国民の権利としての福祉施策が徐々に整備され今日
に至っているにもかかわらず、時の為政者の心無い一言でこの国の施策に100年ものタイムスリップを起こ
すことを許してはなりません。



～ じじよ きょうじよ こうじよ かんが ～
～ 自助・共助・公助について考える ～

グループホーム じゆにん よねだ まちる
主任 米田 守

9 月に安部首相の辞任に伴い菅新内閣が発足しました。菅首相は安倍内閣の方針をそのまま引き継ぎ、まずはコロナウイルスへの対応と経済安定を優先課題にあげ、国民一人一人が安心して安定した生活ができるように、さらに「私の目指す社会像は まずは自助→共助→公助」だと語っています。

コロナウィルスの混乱の中、開始された G o T o キャンペーン。感染拡大で多大な影響を受けた旅行業界を支援するのを目的に、1 兆円以上もの多額の税金を投入した政策。国民にとっても「どんどん旅行をしよう!! しかもお得、ラッキー!!」と利用を考えている人も多いと思います。

しかし、感染の拡大が落ち着かない中での実施やこれだけ多額の税金を投入したにも関わらず、簡単に決まり強行的に実施した国の状況に批判的な意見もみられました。自民党のある権力をもった議員が旅行業協会の会長を務めているのも事実ですが・・・そうとは思いたくはないですが・・・私はこの国の政治家が本当に国民一人一人が安心して安定した生活ができることを望んでいるとは到底思えません。

菅首相は「自助」＝「まず自分で」を述べています。悪い言い方で言いかえると「まず自分できれいとかしろ!!」「自己責任だ!!」と国民のために選ばれた政治家、最大の権力者である首相がそう言っているのです。コロナで苦しみ闘いつづけている人々、医療関係者や学校で勉強や活動できずに泣いている学生たち、第一福島原発事故で未だに故郷を追われ避難している人々、河川の氾濫や浸水害、土砂災害が発生し避難区域の縮小にともない、徐々に避難者への公的な住宅提供は段階的に打ち切られ住んでいた家もなくなり、帰りたくても帰れない人々、その他・・・。

G o T o キャンペーンが悪いとは言いませんが・・・、こうした人々が一番必要としていることがなんだか理解しているのでしょうか??? せめて国民から選ばれた政治家であるのなら「公助」を一番に考えていただきたいものです。ただでさえ現在は「公助」＝「公的な福祉サービス」についてもこれまで以上の財政難により安心して受けられる状況ではありません。「公助」＝「公的な福祉サービス」が一番必要な人々(障がい者、高齢者など)が切り捨てられる論調になりつつあるのです。昔は「公助」が重視されてきましたが、日本の首相、トップがそう述べているのですから・・・と、このような考え方(「自助」＝「まず自分で」)が一挙に地方の福祉行政にまでも加速し影響を及ぼす事態になるように思えます。事実!? 障害者福祉サービス等利用計画作成においても ああだ、こうだと行政(役場の福祉課)が言ってくるのが以前に比べ多くなりました。「財政が厳しいんだ!!」「自助」＝「まず自分で」「まず自分でなんとかしろ!!」「自己責任だ!!」と言っているのです。このような社会状況の中でそれぞれ私たちに何ができるんでしょうか?・・・。

さいしゅうかい
最終回

しゃしん とも しょうかい 写真で友だち紹介

このページでは、利用者の皆さんに、お友だちをひとり選んで写真を撮って紹介してもらいます。

紹介をされた人には、次号であらたなお友だちを紹介してもらうという数珠つなぎのコーナーです。
今回で最終回となります。

たなかけんすけ
田中謙輔さんから
あわひろあき
阿波宏晃さんを紹介しします



あわ ひろあき いっしょへや
阿波さんとは、お昼休みに、いつも一緒に部屋
で過ごしています。
あわ ととき て あ
阿波さんが時々、手を上げて、ストレッチ
体操をやっているのを見て、
きもちよ おち
気持ち良さそうだなあと思っています。
こんど いっしょ
ばくも今度、一緒にやってみたいです。



さかもと しょくひんぐーぶ ばん つく
坂本さんとは食品グループでパンを作
っていた時に一緒に作業していました。
ばん まる じょうず いま
パンを丸めるのが上手でした。今はバス
で時々となりに座ることがありますが、
ふたりとも静かに座っています。坂本さ
んはまるい顔をしていておとこまえだ
とおも
思います。かみがたもかっこいいです。

たかしまつとむ
高島 努さんから
さかもとともき
坂本友希さんを紹介しします。



たかしまつとむ いもとか な しょうかい
高島 努さんから井本香菜さんを紹介しします。

いもと しょくひんぐーぶ いっしょ やさい き さぎょう じょうず き
井本さんも食品グループで一緒に野菜を切る作業をしていました。上手に切
っていました。かみがたがかわいくて、めがねがあうひとです。ぼくは今
えんげい しごと いもと えんげい しごと
の園芸の仕事がすきなので、井本さんも園芸にきてまたいっしょに仕事で
きたらいいなあとと思っています。

まつながりょう いしかわとおる
松長 玲さんから石川徹さん
しょうかい
紹介しします



いしかわ ぼく としうえ
石川さんは、僕よりひとつ年上で
せ たか ひと
背が高い人です。
えん しょくひんせい か
ちいろば園の食品製菓グループで
さぎょう
作業しています。
いつも にこにこと わら
笑っています。





へぐりちゅうおうこうえん 平群中央公園へハイキングに行ってきました

ちいろば園職員 井上啓樹

新型コロナウィルスの影響でちいろば園の年間行事が軒並み中止となってしまう、支援者間でコロナ禍でも実行可能な行事としてハイキングが検討されました。外出レクリエーションが中止になったことを受けて利用者による自治組織「みんなの会」にて【電車に乗らない】【レストランで食事しない】という条件で、どんなことならできるのか話し合われ「運動不足解消のために歩いて、外でお弁当を食べよう」というアイデアが出ました。そして支援者からハイキングを提案し「ちいろば園から歩いて平群中央公園」が決まりました。

お日様を体いっぱいを感じながら、ぶどう畑を通り、のどかな田んぼや菊畑を歩くルート。車いすの方や長時間の歩行がしんどい方も途中で合流。一緒にゴールし公園で昼食やグループごとに工夫を凝らした遊びを楽しみました。その感想と写真をご覧ください。



歩くのはしんどかったけど、どんぐりたくさんひろったよ
(吉岡佳菜さん)



僕は地図を見ながら先頭で道案内をしました。
初めてだったけど、うまくいってよかった。
(斎藤総一郎さん)



ずーっと歩いたからお腹すいて、カラアゲ弁当うまかった！もう足がぱんぱんだったから帰りは（支援者の）磯道さんに背中を押ししてもらって歩いてました。（辰巳普宣さん）



どんぐりでコマを作ってあそびました。けっこう回せたから、となりで竹下さんが笑ってました。（橋本勝寿さん）

『支援ツール』

グループホーム職員 辰己浩規

私が支援ツールを作成するにあたって考えるのが、①誰が使うのか？(個々に特性が違う)②どういう目的で使うのか？(結果どうなるのかという事を本人と支援者間でも共有する)という事です。有効的な支援ツールを作るためには普段から利用者の方の困り事、どのような工夫があれば困り事が解決できるのか、より主体的な生活ができるのかという事をしっかりと観察・考察する事が大事だと思います。また利用者の方の困り事を「困り事」だと感じれるかどうかという事も大切だと思います。

ここで、にぬふあ星・Kさんの朝出発するまでのスケジュール表を紹介します。

Kさんは朝、機嫌が悪い事が多く、出発準備を促す支援者に腹を立て怒る事がしばしば。また、出発時間ギリギリになる事もありました。Kさんの部屋には文字とイラストで一日の大まかなスケジュールを示した表があります。但し時間の表記はしていませんでした。

おそらくKさん自身は次に何をするのかわかっているのに支援者が何度も部屋をノックし準備を促すので腹が立ったのだと思います。各支援者に状況を聞き、スケジュール表を改善する事にしました。今度は時間も示しイラストをピクトグラム(視覚的に意味を伝えるシンプルな絵記号)に変更しました。そして本人に説明すると共に支援者間でも共通した声かけをするよう確認しました。

それ以降、本人もうれしそうに使っているという声や積極的に取り組んでいるという声を聞きました。また、朝怒っている事も減ってきているとの事です。

時間	イラスト	日本語	チェック
6:30	目覚める	おきる	
7:00	ごはん	ごはん	
7:30	はみがき ひげそり	はみがき ひげそり	
7:50	きかえ (せんたくものを出す)	きかえ (せんたくものを出す)	
	トイレ	部屋でゆっくりすごす トイレ	
8:45	持ち物準備	持ち物準備	
9:15	出発	出発	

次に日之出荘のOさんの月刊カレンダーと一週間の予定表を紹介します。

Oさんは、休み明け自宅からグループホームに泊まる時『帰るよー』と叫びスムーズに行動する事ができません。その度共有スペースのカレンダーで『次帰る日は〇〇日です。』と伝えていましたがなかなか収まらず。そこで本人の部屋に専用のカレンダーと一週間分の予定を示したものを用意しました。それ以降『帰るよー』と叫ぶこともなく、スムーズに行動できる事が増えてきました。



上記二つのケースで私が感じたのが、個々に合った『情報伝達』がいかに重要かという事です。

人それぞれに合った伝え方をしないと情報は伝わらないという事です。逆に情報がしっかり伝われば見通しがもて安心して生活ができるという事です。今回はその事を強く痛感しました。そして支援ツールを使ってもらえるよう普段からの関わり方、その人の事を知るといった思いが大切だと感じました。

仕事への思い 介護者から支援者へ

ちいろば園職員 大野 美子

前職では、13年病院で、整形外科 外科 透析室 救急外来と、ヘルパー職で様々な患者様の世話や介護の仕事につき、寝たままでのお風呂介助、寝たままでの洗髪、口腔ケア 食事介助、お話し相手、圧迫骨折で2週間寝たままの患者様の頭の先から足の先までの全ての介護、色々な経験をしました。

その中で、沢山の高齢者の方々を自分の家族だと思いお世話をさせて頂き共に笑い共に泣きと生と死を目の当たりにした日々で、これからは、未来のある人たちの中で、少しでも力になれたらと、ちいろば園に入職する道を選びました。

勤めて直に感じた事は、利用者の方々のウエルカムな真っ直ぐな目、姿勢でした。1年前、入職して1か月何も分からないままでのちいろば旅行でした。一番印象に残ったのは、宿泊先で眠れずにいた利用者の方に、主任の奥田さんが『とんとん』と、背中に手をする姿でした。寄り添う母の手を思い出しながら今も浮かびます。外出レクリエーション通天閣での大阪探し…楽しかったな～。今年はコロナ禍で、楽しみにしていた行事や、旅行、レクリエーションも、全てキャンセルになってしまい残念でした。

介護は、右手が不自由な人の右腕に、病と心のケアの仕事でした。私自身もちいろば園で、願いをし、大阪市で暮らす父親の介護に行くため木金曜々と、グループホームの世話人の職も、兼任させて頂き、利用者の方の違う姿に触れる機会を頂き感謝しています。支援者は、名ばかりで、未熟な私のお手本は、やはり奥田主任です。いつの間にか目で追いかけてしまっています。常に利用者と向き合

い寄り添い動く。止まらない、休まない

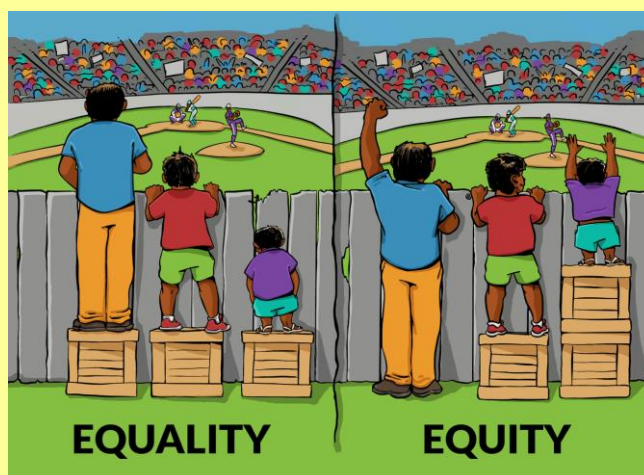
行動に移す。利用者の意思の表明を見極

めると同時に気配り目配り心配りを実践

されている主任の後ろ姿を追いかけて、

利用者の方々と寄り添い利用者主体の支援、

合理的配慮を提供出来るように努力します。



パンジーメディアがちいろば園を

取材に来ていただきました！！

知的障害をもつ人たちのことを社会の人々へもっと知ってもらうために、知的障害をもつ当事者が発信するインターネット番組を制作している「パンジーメディア」（社会福祉法人創思苑：東大阪市）のみなさんが映画の上映会と併せて、ちいろば園取材に来ていただきました。



映画『みんなに伝えたいこと』ーピープルファースト25年のあゆみーは、知的障害をもつ当事者の団体「ピープルファースト」の25年に及ぶ活動をまとめた内容で、ちいろば園からも大会に参加した人たちが一瞬ではありますが映し出されとても興味深く鑑賞できました。また、映画のあとの意見交換でも積極的に手を挙げて意見をだしていました。

また、上映会のあととその翌日は、毎月のパンジーメディアの番組で、ちいろば園の活動を取り上げて下さることになり、作業活動の様子や全体終礼の様子を取材していただきました。

パンジーメディアから来てくださった当事者のみなさんから元気をいただいてちいろばの利用者、職員も元気になった1日でした。

ちいろば園の利用者からも、パンジーメディアの番組へ出演希望者がでる日もそう遠くないかもしれません。

※ ちいろば園取材いただいた番組は、11月中の配信予定です。

詳しくは、パンジーメディア <https://pansymedia.com/> からご確認ください。



☆^{こうえんかいひ}後援会費・^{ねんかんこうどくりょう}ちいろばだより年間購読料 (2020 年 8 月 1 日～2020 年 9 月 30 日)

ご^{きょうりよく}協力ありがとうございます。

篠原範子、松井紀久子、植村葉子、牧村スマ子、森谷公将・玲子、木ノ脇廣子、高倉常子

いじょう けいしょう りやく
以上 敬称は略させていただきます



わたしたちは

障害者である前に人間だ！

ドキュメンタリー映画

みんなに伝えたいこと

ーピープルファースト 25 年のあゆみー

キャスト・スタッフ

監督：小川道幸 プロデューサー：林淑美

語り：生田進 ナレーション：吉田和美

撮影：折笠貴／池辺昌史／西野貴善 リサーチ：福岡拳

制作協力：ピープルファーストジャパン

資料提供：現代書館／社会福祉法人同愛会

制作・著作：パンジーメディア／社会福祉法人創思苑

DVD: ￥1,500

ーお問い合わせー

パンジーメディア

TEL.072-968-7151

KSKS ちいろばだより

編集人／ ちいろば会後援会

年 6 回 頒価 50 円

連絡先／ 奈良県生駒郡三郷町勢野北 5-6-14

TEL : 0745-72-1923 FAX : 0745-72-1924 ※番号が変わりました。

発行人／ 関西障害者定期刊行物協会

大阪市天王寺区真田山町 2-2 東興ビル 4 F

二〇〇〇年十二月十二日

第三種郵便物承認

毎月（一・二・三・四・五・六・七・八の日）発行